

地球規模のリスクに立ち向かう地域研究

ウクライナ危機に 多角的に迫る

令和4(2022)年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻は、現地の人びとの暮らしを破壊するだけでなく、地球規模での混乱をもたらしました。8ヶ月が過ぎようとする現時点でも解決の見通しはまだありません。混乱する世界をどのように理解したら良いのでしょうか。本フォーラムでは、コンパクトな解説をいくつも積み上げていきます。日頃、解説されている事象の背後にあることを前景化し、画面を入れ替えるように、総合的に現代世界に接近してみましよう。

日時：令和4(2022)年

12月10日(土)

14:00～17:00〈各報告15分〉

場所：日本学術会議 講堂 + オンライン配信
〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5番出口
より徒歩1分

参加費無料

事前参加申込制

どなたでもご参加いただけます。

〈参加申込方法〉

参加をご希望の方は、下記URLまたはQRコードより事前申込みをお願いします(対面・オンラインとも)。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0110.html>



主催：日本学術会議

企画：地域研究委員会・地域研究基盤強化分科会

共催：JCASA(地域研究学会連絡協議会) / 協力：JCAS(地域研究コンソーシアム)

内容に関するお問い合わせ先：地域研究委員会委員長 小長谷有紀 E-mail: yuki-konagaya(a)jsps.go.jp ※(a)を@にしてお送りください。

その他お問い合わせ先：日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 電話：03-3403-6295

挨拶・趣旨説明

小長谷 有紀 (日本学術会議第一部会員、独立行政法人日本学術振興会・監事)

ソ連帝国の複雑な影：ロシア・ウクライナ・中央アジア

宇山 智彦 (日本学術会議第一部会員、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授)

ロシアから見たウクライナ報道

藤原 潤子 (神戸市外国語大学・准教授)

ロシア・ウクライナ紛争下におけるユダヤ・ファクターの変遷

赤尾 光春 (国立民族学博物館・特任助教)

中国の戸惑いと東アジア情勢への影響

川島 真 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科・教授)

インド：「漁夫の利」戦略の展開とクアッドへの影響

中溝 和弥 (日本学術会議連携会員、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授)

地政学的変化の中のトルコ外交

澤江 史子 (上智大学総合グローバル学部・教授)

EUとNATOから見たロシア・ウクライナ戦争

東野 篤子 (筑波大学人文社会系・教授)

アフリカ諸国の複雑な態度の背景にあるもの

武内 進一 (東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・教授 / 第一部元連携会員)

21世紀の紛争と難民受け入れ政策の変化

錦田 愛子 (慶應義塾大学法学部・准教授)

総合討論

司会 小長谷 有紀

討論者 田辺 新一 (日本学術会議第三部会員、早稲田大学創造理工学部・教授)

栗田 抄苗 (一般財団法人日本エネルギー経済研究所・研究主幹)

閉会挨拶

春山 成子 (日本学術会議第三部会員、三重大学・名誉教授)